

能登半島における広域道路ネットワーク基本方針を とりまとめました

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震を受け、地域の復興計画等の実現に向け、求められる道路のサービス確保やネットワークの機能強化など、能登半島における広域道路ネットワークについて検討するため、令和6年12月に「能登半島における広域道路ネットワーク検討会」を設置し、能登地域の広域道路ネットワークのあり方の方向性について検討を進めてきました。

能登半島を取り巻く状況や交通の状況をビックデータを用いて詳細に分析することで、解決すべき多くの課題が見えてきました。例えば、人口減少に対しては、将来的な二地域居住による関係人口拡大や観光周遊などによる交流人口拡大を促進する「基幹軸の強化」を、また、災害時の物流途絶を防ぎ、農林水産など地域の“なりわい”を支える「物流経路の確保」など、地域課題に対応した広域ネットワーク検討の5つの視点を整理しました。

さらに考慮すべき都市・防災拠点・医療機関・工業団地・生活インフラ・観光地などの拠点を整理した上で、「拠点連絡」「信頼性・対災害性」「観光周遊」の3つのサービスの柱でそれぞれネットワークを検討し、基本方針としてとりまとめました。

今後、この基本方針に基づき、国・県が連携し、能登半島における広域道路ネットワークの構築に向けた具体的な検討を進めていきます。

(参考)広域道路ネットワーク検討の「5つの視点」と「3つのサービスの柱」

5つの視点	<ul style="list-style-type: none"> 半島内の骨格を為すとともに、二地域居住など関係人口の拡大や災害時の支援活動の迅速化や移動の高速化を支える「基幹軸の強化」 能登半島地震に伴う医療機関からの到達圏域縮小に対応するための「医療活動の支援」 災害時における物流の滞留を防ぐための「物流経路の確保」 災害時における早期の生活インフラ復旧を支援するための「生活インフラとの連携」 沿岸部の観光資源を繋ぎ、新たな観光周遊を支える「観光ルートの形成」
3つのサービスの柱	<ul style="list-style-type: none"> 一連のサービス速度による能登地域全体の連絡を強化する『拠点連絡』 生活や産業活動に必要な拠点を連絡し、信頼性や耐災害性、復旧性を備えた『信頼性・耐災害性』 魅力的な能登を周遊する観光圏形成のための『観光周遊』

※基本方針は、北陸地方整備局のHPで公開しています。

<https://www.hrr.mlit.go.jp/road/index.html>

■記者発表先

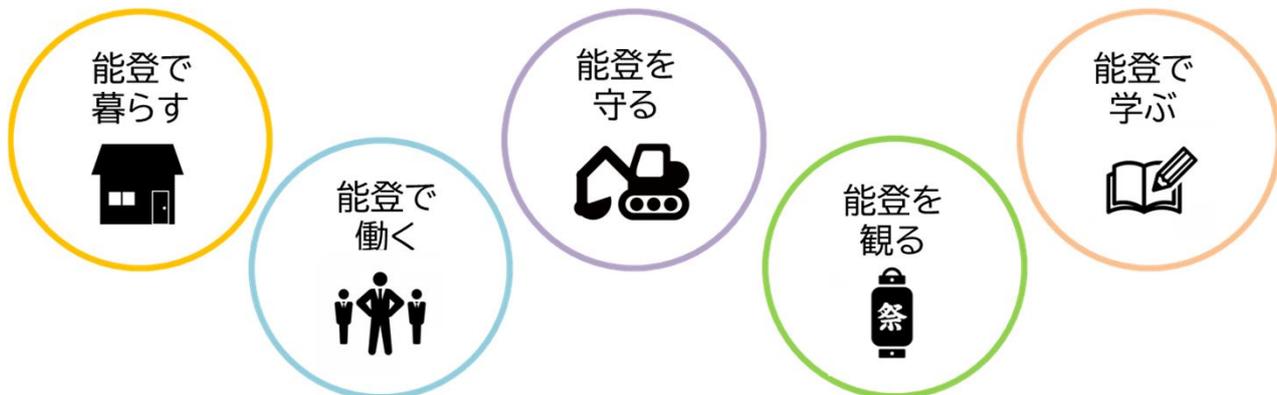
新潟県政記者クラブ、新県政記者クラブ、新潟県内専門紙、富山県政記者クラブ、富山県内専門紙、石川県政記者クラブ、石川県内専門紙

■問い合わせ先

能登半島における広域道路ネットワーク検討会 事務局
 国土交通省 北陸地方整備局 電話：025-280-8880(代)
 道路部 道路計画課 課長 北出 ^{きたで} ^{かずまさ} 一雅 (内線4211)

能登半島における広域道路ネットワークの基本的な考え方

能登半島の復興に関する各種計画から見える**将来に向けた検討課題**



◆広域道路ネットワーク検討の基本的な考え方

- ① 能登の創造的復興を支える道路ネットワークを基本に、人口減少が進む能登における将来的な二地域居住なども踏まえ、災害時・平時を問わず医療活動や物流を支え、生活インフラを維持していくため、**医療・生活・なりわい等の拠点と金沢などの都市や空港・港湾との結びつきを強くし、住んでいる人の生活を支えるネットワーク**を目指します。
- ② 人々を魅了する食や景観、伝統文化、豊かな自然などの強みがあり、これらを活かし、**国内だけでなく世界から人を呼び込み交流を広げる能登半島絶景海道の形成**を目指します。

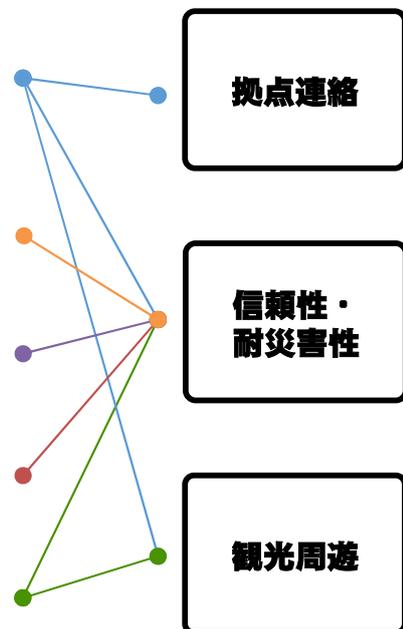
※ ②については、別途検討会（能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会[令和7年2月3日設立]）でも検討しています

能登半島における広域道路ネットワーク構築のポイント

能登半島の課題を踏まえた5つの視点

基幹軸の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○能登半島地震の被災を教訓に、「いざという時」こそ確実に機能するよう、半島内の骨格を為す高規格道路等のネットワークを強化 ○災害時における支援活動の迅速化や広域的な交流・連携の促進（二地域居住など関係人口の創出・拡大等）を支える、金沢都市圏や隣県の富山県との広域道路ネットワークを強化
医療活動の支援	○能登半島地震における活動圏域縮小の実態を踏まえ、災害時の医療活動を支える道路ネットワークを強化
物流経路の確保	○能登半島における経済活動を支え、災害による物流の停滞を防ぐため、物流拠点と交通結節点を結ぶ道路ネットワークを強化
生活インフラとの連携	○災害時における生活インフラの復旧を支援するとともに、将来的なインフラ収容空間としての活用が想定される道路ネットワーク強化
観光ルートの形成	○能登半島沿岸部を中心に数多く存在する観光資源をつなぎ、新たな周遊観光を支える観光ルートを形成。また、のと里山空港とも連携し、国内だけでなく世界をつなぎ、能登半島全体への周遊を促進

3つのサービスの柱



能登半島における広域道路ネットワーク基本方針

■基本方針

能登半島は南北に細長く、かつ3方を海に囲まれた山がちな地形であることから、道路をはじめとしたアクセスが限定されており、令和6年能登半島地震及び豪雨災害では、高規格道路が被災により寸断するなど、道路ネットワークとして根幹的な問題が生じました。

今回の災害を教訓に、創造的復興の前提となる半島防災や人口減少が進む能登地域における関係人口拡大など新たな視点に立った備えとともに、能登地域の皆さんに寄り添った道路ネットワークの検討が不可欠です。

能登の持続的な発展を支え、地方創生の礎となる道路ネットワークを構築するための基本的な方針として三つのサービスの柱を設定しました。

これらのサービスの柱を踏まえた道路ネットワークの構築により、未来志向の復興を実現するため、1日も早い能登半島地震からの創造的復興を支援します。

求められるサービス・機能	凡例	概要
拠点連絡		<ul style="list-style-type: none"> 南北に細長い能登半島における能登地域全体での連結強化 各拠点を道路種別や管理主体にとらわれず、一連のサービス速度で連結
信頼性・耐災害性		<ul style="list-style-type: none"> 地域生活や産業活動に必要な医療・物流・生活インフラ拠点を結ぶ 耐震性や復旧性を備え、災害時にも機能するネットワーク
観光周遊		<ul style="list-style-type: none"> 能登の絶景、自然の恵み、祭礼・伝統技術など、魅力的な能登を周遊する観光圏形成（「道の駅」、サイクルツーリズム、風景街道等に配慮）



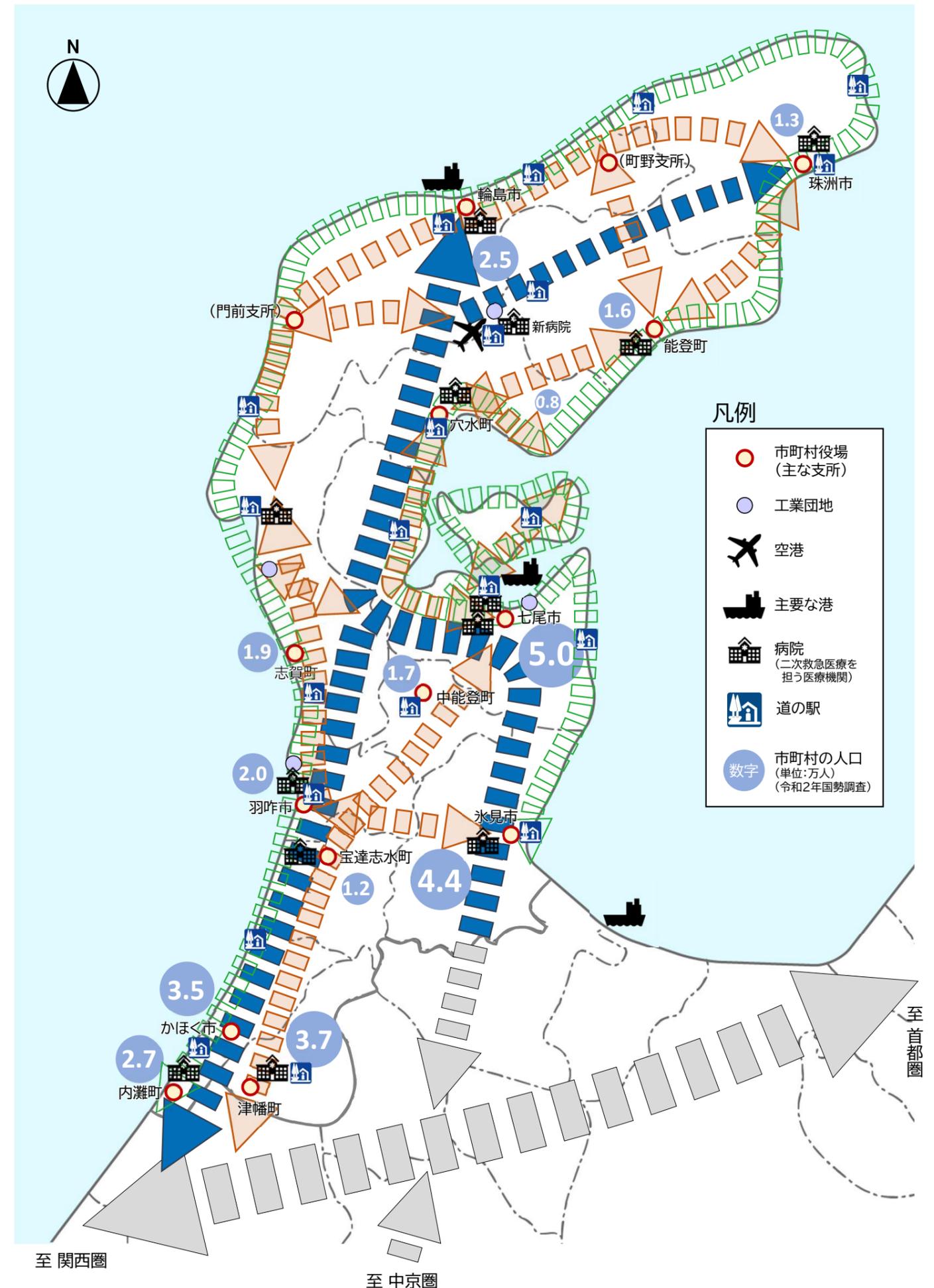
防災道の駅「のと里山空港」の使用状況



マリントウン岸壁からの給水支援(輪島港)



空の玄関口 のと里山空港



能登半島における広域道路ネットワーク検討会

開催経緯

開催日	検討会の内容
令和6年12月23日(月)	第1回能登半島における広域道路ネットワーク検討会 ○設立趣意及び規約(案)について ○能登半島における広域道路ネットワークの検討 ○今後の進め方(案)
令和7年 3月 4日(火)	第2回能登半島における広域道路ネットワーク検討会 ○第1回検討会の意見と対応 ○能登半島の課題を踏まえた広域道路ネットワーク構築のポイント ○今後の進め方(案)
令和7年 3月24日(月)	第3回能登半島における広域道路ネットワーク検討会 ○第2回検討会の意見と対応 ○能登半島における広域道路ネットワーク基本方針(案)

委員名簿

(敬称略、順不同)

氏名	所属等
高山 純一	公立小松大学 教授
川村 國夫	金沢工業大学 教授
中山 晶一郎	金沢大学 教授
藤生 慎	金沢大学 教授
竹林 秀基	北陸地方整備局 道路部長
五十川 泰史	北陸地方整備局 金沢河川国道事務所長
杉本 敦	北陸地方整備局 能登復興事務所長
桜井 亘	石川県 土木部長
金谷 英明	富山県 土木部長

